

成績概要書 (2003 年 1 月作成)

研究課題名: かぼちゃの品種特性 (野菜の品種特性)(新技術・新品種導入対策事業)

担当部署: 花・野菜技術センター 研究部 野菜科

協力分担: 農産園芸課、各地域農業センター

予算区分: 受託、事業

研究期間: 2001, 2002 年度 (平成 13、14 年度)

1. 目的

かぼちゃの民間育成品種について、作型、地域適応性をふまえ、品質特性や着果性等を加味した品種特性を調査し、産地における品種選択の資料を提供する。

2. 方法

1) 試験実施場所、実施年次・作期

・花・野菜技術センター	H13、H14	作期	、	・常広市農業技術センター	H14	作期
・伊達市西胆振農業センター	H13、H14	作期		・美深町農業振興センター	H14	作期
・今金町農業実証試験圃場	H13	作期		・遠別町農業振興センター	H14	作期

作期: 露地早熟直栽培 作期: 露地早熟直栽培 整枝法: 子蔓3本仕立て、今金町は放任、常広市は子蔓2本仕立て。

2) 供試品種

標準品種: 「えびす」 作期: 22 品種 (H13, H14) 作期: 20 品種 (H13) 16 品種 (H14)

3. 成果の概要

1) 品種の特性概要

花・野菜技術センターで2ヶ年供試した品種について、作期における成績を主として、地域農業センターの成績を加味した特性の概要について以下に記す。

「えびす」: 果形は扁円型で、果皮色は濃緑色。草勢は中位である。平均一果重は概ね 1.8kg~2.0kg であり、肥大性は良好である。着果数は安定して多く、収量性は高い。肉質は粘質気味である。

「北のこころ」: 果形は腰高扁円から球形に近く、果皮色は濃緑色。草勢は強めである。平均一果重は概ね 2.0kg~2.3kg であり、肥大性は「えびす」と比べて良好である。着果数は「えびす」と比べて少なく、収量性はやや低い。肉質は粉質である。年、地域により果形、果重及び果皮色がばらつくことがある。花・野菜技術センターでは、平成14年作期において試験区配置により霜害を受けた。

「メルヘン」: 果形は腰高扁円。果皮色は濃緑色。草勢は強めである。平均一果重は概ね 1.5kg~1.8kg であり、肥大性は「えびす」よりやや劣る。着果数は安定せず、変形果が多くなる場合があり、収量性は低い。肉質は強粉質で、甘味は強い。

「みやこ」: 果形は扁円型で、揃いは良好である。果皮色は濃緑色。草勢は中位である。平均一果重は概ね 1.3kg~1.7kg であり肥大性が劣るため、着果率は「えびす」と同程度であるが、収量性は低い。肉質は粉質で、甘味は強い。

「こぶき」: 果形は扁円型で、揃いは良好である。果皮色は黒緑。草勢は強い。平均一果重は概ね 2.0kg~2.4kg であり、肥大性は良好である。着果数は安定せず、収量は年、地域によりばらつく。肉質は強粉質で、甘味は強い。

「九重栗 EX」: 果形は栗型。果皮色は「えびす」と比べて濃い濃緑色。草勢は強い。平均一果重は概ね 1.6kg~1.9kg であり、肥大性は「えびす」と比べてやや劣る。着果数は「えびす」と比べて安定して多い。収量性は「えびす」と比べてやや低い。肉質は強粉質で甘味は強い。

「試交 24 号」: 果形は扁円型で、揃いは良好である。果皮色は濃緑色。草勢は中位である。平均一果重は概ね 1.8kg~2.1kg であり、肥大性は良い。着果数は少なく、収量性は「えびす」と比べてやや低い。肉質はやや粉質である。

「くりひろ」: 果形は扁円型で、揃いは良い。果皮色は濃緑色。草勢は強めである。平均一果重は概ね 2.0kg~2.2kg であり、肥大性は良い。着果数は少なく、収量は地域によりばらつく。肉質は強粉質である。

「虹口マン」: 果形は扁円型で、揃いは良好である。果皮色は濃緑色。草勢は強めである。平均一果重は概ね 1.8kg~2.0kg であり、肥大性は「えびす」と同程度である。着果数は「えびす」に比べて安定して多い。但し、着果節位が高節位に偏る傾向がある。収量は地域によりばらつく。肉質は粉質である。

「甘ウマ」: 果形は扁円型で、果皮色は黒色。草勢は強めである。平均一果重は概ね 2.4kg~2.9kg であり、肥大性は極めて良い。果重のばらつきが大きくなることもある。着果数は安定せず、収量は年、地域によりばらつく。肉質は粉質で、甘味は強い。

「NS-217」：果形は扁円型で、揃いは良い。果皮色は濃緑色。草勢はやや強めである。平均一果重は概ね 1.6kg～1.9kg 前後であり、肥大性は「えびす」と比べてやや劣る。着果数は「えびす」と比べて少ない。収量性は「えびす」と比べて低い。肉質は粉質である。

「らいふく」：果形は扁円型で、揃いは良好である。果皮色は濃緑色。草勢は中位である。平均一果重は概ね 1.6kg～1.8kg 前後であり、肥大性は「えびす」と比べてやや劣る。着果数は「えびす」と比べて少ない。収量性は「えびす」と比べて低い。肉質は強粉質である。

「NS-K-1」：果形は扁円型で、果皮色は濃緑色。草勢はやや強めである。平均一果重は概ね 1.6kg～1.9kg 前後であり、肥大性は「えびす」と比べてやや劣る。着果数は安定せず、収量性は「えびす」と比べて低い。果梗部のコルク化が遅く、特に直播栽培においては収穫判断が難しい。肉質は粉質である。

「MK-K14」：果形は扁円型で、果皮色は濃緑色。草勢は強めである。平均一果重は概ね 1.7kg～2.0kg 前後であり、肥大性は「えびす」と同程度である。着果数は「えびす」に比べて安定して多い。収量は年、地域によりばらつく。肉質は粉質である。

2) 雌花着生及び着果(作期、花野セ)

「虹ロマン」、「九重栗 EX」及び「MK-K14」は 2 ヶ年共に着果数が多かった。着果率は「虹ロマン」、「九重栗 EX」、「試交 24 号」、「NS-K-1」及び「MK-K14」等が 2 ヶ年共に高かった。

3) 甘み及び粉質感(作期、花野セ)

甘み及び粉質感について Brix 及び乾物率を指標として評価した。「みやこ」、「メルヘン」及び「こふき」は 2 ヶ年共に Brix が高かった。「九重栗 EX」、「くりひろ」及び「NS-K-1」は 2 ヶ年共に乾物率が 28% 以上で高かった。

表. 2 ヶ年供試した品種の特性一覧

番号	品種 または 系統名	果 形	果 皮 色	作期					作期			
				肥大 性	着果 性	収量 性	外部 品質	内部 品質	肥大 性	収量 性	外部 品質	内部 品質
13	えびす	扁円	濃緑	□	□	□	□	□	□	□	□	□
1	北のこころ	腰高扁円	濃緑	○			~□	○	~○	×~□		○
8	メルヘン	腰高扁円	濃緑		~○		□~○	○~	~□	×~	□~○	○
9	みやこ	扁円	濃緑	×	~○		○	○	-	-	-	-
16	こふき	扁円	黒緑	○	~○	~○	○	○	□~○	~□	□	○
2	九重栗 EX	栗型	濃緑			~□	○	□~	~□	×~	□~○	○~
3	試交 24 号	扁円	濃緑	□	~□	×~□	□~○	□~○	-	-	-	-
7	くりひろ	扁円	濃緑	○	×~	×~□	□~○	○	□~○	×	□~○	□
11	虹ロマン	扁円	濃緑	□		~	○	□~○	~○	×~○	○	□~
12	甘ウマ	扁円	黒		~□	~○	~□	□~	○~	□~○	~□	□~○
17	NS-217	扁円	濃緑		×~	×	□	□~○	-	-	-	-
18	らいふく	扁円	濃緑		~□		○	○	×~○	×	□	□~○
19	NS-K-1	扁円	濃緑		~○		□	□~	~□	×~	□	□~○
20	MK-K14	扁円	濃緑	□	○	×~○	□~○	□~○	-	-	-	-

各特性評価は、各試験実施機関の成績を総合評価し(作期)高い順に > ○ > □ (「えびす」) > × とした。但し、着果性及び作期については花・野菜技術センターの成績より評価した。内部品質は、果肉厚、果肉色の他、粉質程度及び甘味について加味した評価である。~は地域、年次間の変動幅を示す。

4. 成果の活用面と留意点

- 1) 産地における品種選択時の資料とする。
- 2) 本成績は各品種共通の栽培管理による特性評価である。仕立て法は子蔓 3 本仕立てとした。

5. 残された問題とその対応

- 1) 各品種に適合した栽培条件下での特性評価